

弘前

弘前大学は15日、同大で学生に対する米の無料配布を始めた。提供しているのは、同大付属金木農場(五所川原市)の水田で

今年栽培・収穫した新米で、米価の高騰や物価高を受けた支援策。学生からは「生活が厳しい中、助かる」との声が聞かれた。
(菊谷賢)

新米で物価高乗り切って



▲
【写真上】福田学長から米を受け取る弘前大学生(手前左)=弘前大文京町キャンパス
【同下】金木農場で米の収穫作業を行う弘前大学の学生(手前)=9月(同大提供)

「生活厳しい中助かる」

弘大、学生に付属農場産を無料配布

弘大は本年度、同農場の計366haで、県産米「つがるロマン」や富山県が開発した「てんたかく」を栽培。収穫には学生も協力した。

全体の収穫量約14tのうち約10tを無料配布用とし2kg入りの袋で5千個を用意。学生約290人が事前に配布を希望した。同農場の米を無料

配布するのは初めてで、大学の基金を活用した。この日、文京町キャンパスの学生会館で、福田真作学長や職員らが、学生1人につき1袋ずつ米を手渡した。

に駆けつけた教育学部2年の渋谷麻由さんは「米の値段が上がって、生活が厳しくなる中で、このような支援はとても助かる。早速、今晚炊いて食べたい」と明るい表情で語った。福田学長は取材に「金木農場の協力を受けて、このような支援をできたのは良かった。学生には、新米を味わってほしい」と述べた。配布は、文京町キャンパスで17日まで行い、本町キャンパスでは18、19日の両日に実施する。